Newsletter

No.6　2023 年 11 月発刊
日本糖尿病教育・看護学会　国際交流委員会

会員のみなさま、こんにちは。
国際交流委員会より、ニュースレター第 6 号をお届けいたします。

♫第 6 号のトピックス♫

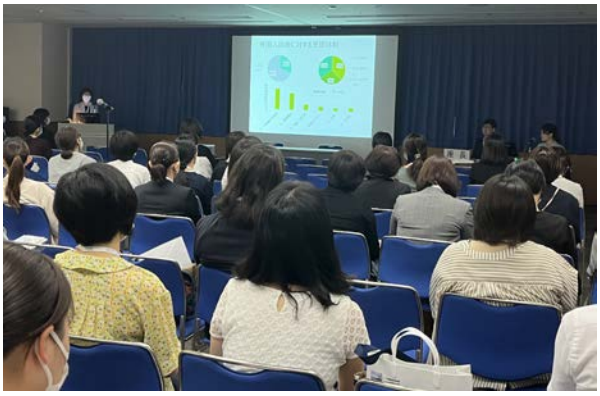
1．JADEN28 学術集会（住吉和子大会長）国際交流委員会セミナー企画の報告
2．外国人患者さん療養支援で活用できる多言語パンフレットの紹介
3．海外における研究論文の紹介―今回はフランスとデンマークの遠隔ケアの研究を紹介します！

1．ＪＡＤＥＮ28 国際交流委員会セミナー企画報告

第 28 回学術集会において、国際交流委員会セミナー企画「外国人患者さんへの糖尿病支援、どうしていますか？～看護師の支援の工夫と外国人患者さんの声から考えよう～」を行いました。国際交流委員会の河井委員から JADEN 会員を対象に外国人患者さんに対する療養支援の困難に焦点をあてた実態調査結果の概要紹介、国立国際医療研究センター糖尿病看護認定看護師の町川香代子氏から外国人患者さんに対する療養支援の困難と工夫についての看護師からの経験談、日本で生活するベトナム人の G さんから療養生活上で経験している困難と療養の工夫についての経験談をご講演いただきました。当日は現地開催のみでしたが、約 140 名の方々がご参加いただき、外国人患者さんに対する療養支援の困難や工夫について熱い交流を行いました。

実態調査結果の概要紹介により、当今の日本は在留外国人診療が増えつつ、特定の看護師が対応するというよりも、看護師誰もが対応する必要がある状況になっており、言語的な障壁や個人のライフスタイルが大きく影響する内容に関しては、ほとんどの看護師が困難感を抱いていることが分かりました。町川氏は、外国人患者さんの看護支援での困難として、「言葉の壁（コミュニケーション）」と「文化・生活様式・宗教の違い」を挙げ、医療通訳対応の状況や体制及び多言語パンフレットをご紹介いただきました。外国人患者が希望する情報発信言語は、英語や機器より訳された母国語などよりは、「やさしい日本語」が希望されている調査結果もご紹介いただきました。「謙譲語より丁寧語を使う」「外来語を多用しない」「オノマトペは使わない」「言葉を言い換えて選択肢を増やす」「ジェスチャーや実物提示」「いつも食べる食事の把握は写真をとってきてもらう」などのコミュニケーション手法を情報共有いただきました。ベトナム出身の G さんからは、インタビューの形で母国に帰国した際に経験している療養生活上の困難や工夫について、ベトナムの食材には食品成分表がないことでインスリンの量をどのように決めていくかのご自身の工夫をご紹介いただきました。セミナー企画の質疑応答では、参加者の皆様から、外国人患者さんに対応する療養支援の悩み相談や通訳機器やアプリケーションにより訳された言葉の齟齬が生じた経験談、各自の勤務先で使用している通訳手法の情報共有、非常に有意義なディスカッションが行われていました。

国際交流委員会のセミナー企画のアンケートでは、「外国人（医療者や患者）を交えた交流集会の開催」や「患者の声を聞きたい」、「事例を発表してい頂きたい」、第 2 弾の内容を期待しているご要望が多くありました。お寄せいただいた声は今後の国際交流委員会の委員会活動に活かしていきたいと思います。



河井委員から会員実態調査結果の概要紹介

町川氏から療養支援の経験談

ベトナム出身の G さんからの療養生活上の経験談

参加者と発表者との交流の様子

登壇者：左側　河井委員　右側　町川氏　　座長席：左側　中山委員　右側　山口委員

２．在留外国人患者さんの対応に使えるツール紹介（国立国際医療研究センター糖尿病看護認定看護師、町川香代子氏からご紹介）

●患者向け資料（多言語）

糖尿病の解説資料（要約版）日本語、英語、中国語、ミャンマー語、ネパール語、フランス語

https://dmic.ncgm.go.jp/medical/120/multilingual/multilingual.html

糖尿病の説明、検査、食事療法、運動療法、内服薬、インスリン注射と管理方法、低血糖やシックデイ、フットケア、口腔ケアのことについて、それぞれ多言語でパンフレットが掲載されています。

３．海外における研究論文の紹介

フランスでは 1997 年から 2007 年の間に、DFU に関連した入院が 5 倍に増加していることが研究の背景に。

糖尿病足潰瘍に対する遠隔モニタリングと標準ケアにおける在院日数とコストの比較：非盲検ランダム化比較試験

Hospital stays and costs of telemedical monitoring versus standard follow-up for diabetic foot ulcer: an open-label randomised controlled study.

著者：Dured Dardari, Sylvia Franc, Guillaume Charpentier, et al.

出典：The Lancet Regional Health – Europe 2023;32: 100686

概要：糖尿病性足潰瘍（DFU）の遠隔モニタリングは、治療効果を損なわずに外来受診回数を減少させることはすでに明らかとなっている。本研究では、DFU に関する豊富な経験をもつ専門性の高い看護師による遠隔ケアの効果を明らかにすることを目的とした。患者 180 名を無作為に割り付けたランダム化比較試験。主要アウトカムは 12 か月間の累積入院日数。副次アウトカムは①医療費②創傷治癒③切断率。結果、専門性の高い看護師による遠隔医療群では、対象群に比較して、累積入院日数が少なく（p＝0.0458 ANCOVA）、医療費も少なかった（P＝0.0120）。創傷治癒の割合と切断率は、両群間で有意な差はなかった。専門性の高い看護師による遠隔医療ケアは、入院期間と直接費用を低減できる。

＊**どんな介入？**→フランスでは、創傷ケアは標準的な経過観察（ドレッシング材の交換、潰瘍モニタリング）に地域看護師（コミュニティナース）が退院後も訪問ケアがある(今回の対照群のケア)。今回の介入群は、DFU の専門性の高い看護師が地域看護師と連携し、撮影された創傷の写真をもとに個別ケアを立案する。創傷の状態に応じて地域看護師または専門性の高い看護師自身が個別訪問をしている。

患者が自分の症状などの経験を報告する患者報告型アウトカム（PRO）や、患者参加型外来診療（患者主導型のフォローアップやケアプラン作成）は、医療側の視点から研究がされてきたけれども、患者側はどのような経験をしているか？が研究の動機に.

柔軟な患者報告型アウトカムに基づく 1 型糖尿病患者遠隔フォローアップ－患者の経験の質的分析

Flexible patient-reported outcome-based telehealth follow-up for type 1 Diabetes: A qualitative study.

著者：Annesofie L. Jensen ,Liv Marit Valen Schougaard ,Tinne Laurberg ,et al.

出典：Scandinavian Journal of Caring Sciences.2023;37(3):662-676.

概要：糖尿病ケアでは遠隔医療と PRO に関する患者の経験はいまだ明らかになっていない。我々が開発した Diabetes Flex Care（DFC;年 1 回の自記式質問紙の記入。年 1 回の対面予約（必須）、2 回の外来診察（任意。電話または対面）。遠隔医療システムで管理）を利用している糖尿病患者の経験を解釈学的記述により明らかにする。DFC を利用した患者から無作為に選定し半構造化インタビューを実施。インタビューガイドは、これまでの糖尿病ケア経験、DFC と PRO について、患者の役割と自己管理、各種のコンサルテーション、自分が関与することにもたらす影響、5 つのトピックスが含まれた。36 名の分析結果より、今までの対面の診察だけでは準備もすることもなかったが自記式質問紙に記載することで**糖尿病とともに生きることの振り返りがすすんだ**こと。**自分が関与することで柔軟性は高まり、責任感も高まった**ので、糖尿病ケアに積極的に参加するようになったこと。診療の時間や場所が変わったので、より柔軟に対応できて医療者との対話はより幅広い内容について、医師と看護師とも同時に話が通じ、自分のニーズに合った医療、つまり DFC によって**糖尿病治療の条件が変化した**と感じていたことが明らかになった。DFU は個別化された柔軟なケアに有用であるが、すべての患者に適切かは今後の検討課題である。